

先輩「いらっしゃいませご主人様」

新人「今日が初日になりますけど…せ、精一杯、頑張りますっ…」

先輩「ご主人様、今日のご予約通りのコンセプトで構いませんか？」

新人「(ぼそっと) せ、先輩…ご予約のコンセプトって…？」

先輩「(ぼそっと) こちらの、シートをご覧ください…」

新人「(ぼそっと) ちょっとこれ…ウンコ、とか…ちゃ、着衣脱糞…？とか普通に書いてるんですけどぉ…」

先輩「まずは、新人メイドの排泄がご希望ですね…？ご主人様も…お目が高いですわ…」

新人「え…？私が…ご主人様の前で、は、排泄するんですかぁ…？そんな…いきなり言われても…」

先輩「困った顔していますけど…大丈夫ですよ。ちゃんと準備してありますからぁ…」

新人「あれあれえ…？なんかぁ…お腹がぁ…グルグルいってるますぅ…お腹が…い、痛いかも…」

先輩「ご主人様、ご予約時間 30 分前には、メイドに下剤を仕込んでおきました…ご安心、くださいねえ…」

新人「えええ…そうだったんですか…？…さっき飲んだ飲み物にい…下剤…？…んんん～っ…お腹…痛い…んんっ…はぁ～っ」

先輩「仕事のできるメイド、とは…こういうことですよ…おわかりですか…？」

新人「(ここからオーバーにならない程度に苦しそう・嫌がる感じは少なめで) う～んっ…も、漏れちゃうのお…んはぁ～っ…」

先輩「それに…お望みどおり、最初は着衣のまま…致しますわねえ…」

新人「ええっ…し、下着も…はぁっ…脱げないの…？こ、このままだとお…ぱ、パンティ…汚れちゃうよお…んはぁっ…はぁっ…」

先輩「ご主人様のご命令は…絶対！ですよお…ご主人様のご希望通りが…メイドの努めですよ…」

新人「は、はじめてのお給仕で…はぁっ…お漏らしなんてえ…んん～っ…それにい…メイド服もお…汚れちゃうのにい…はぁっ…ううう～んっ…」

先輩「うふふっ…何で汚れちゃうのかしら…ちゃんと言ってみてくださいねえ…もしかしたら…ご主人様も…考え直して…くれるかもしれませんわぁ…」

新人「えっと…はぁっ…お、おもらしで…パンティとお…メイド服があ…汚れちゃいます…はぁっ…だから…と、といれ…はぁっ…おトイレえ…はぁっ…」

先輩「えっとぉ…メイドでしたらぁ…内容は…詳しく話す必要がありますの…もっと詳しく言ってくださいねえ…」

新人「はぁっ…はぁっ…わ、私のおもらしする…おしっこや…う、ウンチで…パンティが…汚れちゃいますう…ウンチをもらしてえ…パンツがあ…はぁっ…汚れちゃいますう…はぁっ…はぁ～～っ…んんん～～っ」

先輩「じゃあ…ウンコで…汚れてしまうなら…どうしたいのかしら…それも教えてくださいませんか…？」

新人「えっ…えっと…お、おトイレでえ…おトイレでえ、んはぁっ…おしっことお…う、ウンチをさせてください…はぁっ…んはぁ～～っ」

先輩「わかりましたわ…ではもう一度…簡潔に…言ってみてご覧なさい…」

新人「はぁっ…お漏らししそうな…し、新人メイドの私に…と、トイレで…いっぱい…う、おしっこ…う、ウンコ…させてください…はぁっ…んん～～っ…」

先輩「ウンコがしたくてえ…しょうがないのかしらぁ…？」

新人「はぁっ…はぁっ…はい…ウンコしたいですう…トイレで…ウンコ脱糞…したいですう…はぁっ～～」

先輩「ご主人様…このメイドを…トイレに行かせて、脱糞させてよろしいでしょうか？」

新人「はぁっ…お願い、しますう…はぁっ…おトイレに…行かせて…ください…はぁっ…んん〜っ」

先輩「ん〜…ダメみたいですわね…排泄物で汚れたメイド服もお…全然ありみたいですわ…うふふっ」

新人「んん〜っ…はぁっ…そ、そんな…あああぁっ…もう我慢できないの…はぁっ…んんん〜っ…はぁ〜んっ…んんっ！んああぁっ…」

先輩「ほら…ご主人様ぁ…メイドにお触りしても…かまいませんわ…うふふっ」

新人「きゃっ…あんっ…お…おしり触られてえ…くすぐったくて…はぁっ…ち、力が入りません…もうだめ…（勢いよく）ああんっ…も、漏れちゃう…もれちゃうう〜んんん〜っ…ううう〜んっ」

先輩「あらあらぁ…オマンコから…おしっこが出ちゃいましたねえ…脱糞の我慢はぁ…できたみたいですけどぉ…」

新人「あ〜んっ…おしっこぉ…はぁ〜っ…止まらないよぉ…はぁ〜っ…んん〜っ」

先輩「もう苦しそうでえ…ウンチ脱糞まで…もう少しかしらぁ…」

新人「はぁんっ…んん～っ…ご主人様ぁ…もう少し優しく…んんん…お願いします…はぁっ…んはぁっ」

先輩「あらぁ…メイドが…そんなこと言っではだめですよ…ご主人様の思い通りに…お尻を…いじくりまわされてくださいねぇ…」

新人「(勢いよく) んはぁっ…はぁっ…はぁっ…本当にだめぇ…駄目なのぉ…お尻から…出ちゃいますぅ…あああぁっ…だめっ…ウンチ…駄目ぇ～っ…んんっ…ううう～んっ…」

先輩「んんん～っ…肛門からぁ…ウンコぉ…ドボドボ出てますぅ…ウンコぉ…ブリブリい…」

新人「(脱力) んんん～っ…はぁっ…出ちゃったぁ…ウンチでちゃったぁ…恥ずかしい…あ～んっ…ウンチ…すごいつ…ウンチ…止まらないのぉ…はぁっ…はぁっ…んはぁっ」

先輩「あら…下着の中に…たっぷりと出しちゃいましたねぇ…くんくん…くんくんっ…う～んっ…二オイも強烈…」

新人「(ここから少しだけ脱力) はぁっ…はぁっ…やだぁっ…ウンチの二オイ…クサイよぉ…はぁんっ…はぁっ…ウンチの二オイウンチの二オイっ…んはぁっ…クサイのぉ…はぁっ…んはぁ～んっ」

先輩「このウンコのニオイ…いかがですかぁ？」

新人「はぁんっ…ご主人様にい…ウンチのニオイ嗅がれてるよぉ…私のウンチ…こんなにクサイのにい…はぁっ…はぁっ…んん～～っ」

先輩「こんなに…くさすぎのウンコのニオイ、嗅いでいただいているんですから…ちゃんと感謝の言葉も…ご主人様に言ってくださいね…ほらぁ…」

新人「うううっ…ご、ご主人様ぁ…お好きなだけえ…メイドウンチのニオイ…嗅いだり…ウンチで汚れたパンティ…ご鑑賞ください…はぁっ…よ、よろしければ…パンティ…下ろして…直接…お、メイドの…お尻の穴もぉ…見てくださいますせ…はぁっ…はぁっ…」

先輩「まぁ…この子ったらなんて気が効くのかしらぁ…うふっ…ほらぁ…パンティをズリ降ろしてねえ…」

新人「ど、どうぞ…ウンコしたてのお尻の穴…見てくださいね…はぁっ…はぁっ…」

先輩「うわっ…うううっ…(←ちょっと引き気味に)お尻の周りにも…ウンコが…ベッチョリ…」

新人「んんん～～っ…う、ウンチまみれのお尻…恥ずかしいです…それに…さっきよりニオイも…すごいです…はぁっ…んはぁっ…はぁっ…んん～～っ」

先輩「あらあらぁ…ウンチたっぷりでえ…大事な穴が…よく見えないみたいですねえ…？」

新人「はぁっ…はぁ～～っ…わ、私の…こ、肛門を…見てもらうのにい…ど、どうすればいいんですか…先輩…？はぁっ…はぁっ…んはぁっ…んふう～～っ」

先輩「こういう場合は…ご主人様のために力んで差し上げるの…つまり…オナラ…」

新人「えっ…今度は…お、オナラ…ですか…？はぁっ…め、メイドになるのって…大変すぎい…はぁっ…はぁっ」

先輩「ほら…肛門丸出しになるように…いっぱい力んでえ…手でお尻を広げてえ…ケツ穴丸だしい…」

新人「はぁっ…はぁっ…あんっ…手に…ウンチ、ついちゃうよお…んん～～っ…り、力んで…オナラ…出るかなあ…？はぁっ…んはぁ～～っ」

先輩「ご主人様も…屁コキメイドを…楽しみに待ってますよお…頑張ってえ…」

新人「(すこし力み気味に) はぁっ…はぁっ…ご、ご主人様ぁ…ケツ穴が見えるように…オナラ、しちゃいます…はぁんっ…は、恥ずかしいけど…屁コキメイドの…丸見えの肛門…オナラのお…音とニオイ…味わってください…んんっ、んん～～っ…んんんっ…」

先輩「きゃあっ…ぷっすう～～ってえ…スカしっぺなのぉ…」

新人「あああっ…んん～～っ…変な音で…オナラ…でちゃいましたぁ…」

先輩「やだっ…ニオイもクサくてえ…女の子があ…一番恥ずかしい…スカしっぺ…うふふっ…ぷっすう～だってえ…」

新人「んんんっ…はぁっ…はぁっ…もわぁ～～って…変なニオイなのぉ…はぁんっ…私のスカしっぺえ…くさいよぉ…んんん～～っ…んはぁっ…」

先輩「ご主人様がぁ…よく見えるように…もっとぉ…思いっきりい…屁をぶっこいてえ…」

新人「はぁっ…屁をこいたばかりの…はぁんっ…はしたない…メイドのお尻の穴…よく見てくださいねえ…はぁっ…んはぁ～～っ…う～～んっ」

先輩「まだまだぁ…もっと屁をこいてえ…くっさい屁を…ウンコ穴からぁ…ひりだして見てえ～」

新人「あはぁ～～っ…もう一発…屁がぁ…でる…オナラ…出します…んはぁっ…あ～～んっ…あぁんっ」

先輩「うふっ…かわいい声でえ…ビクンビクンしながらオナラの連発う…こんなにかわいいメイドでもぉ…屁はクサいのねえ…」

新人「ぁんっ…オナラとまらないよぉ…はぁっ…おっきな音で…くっさい屁がぁ…ケツからぁ…出ちゃいますう…んはぁ～～んっ…はぁっ」

先輩「もう～～ウンコとぉ…屁のニオイ…クサすぎますねえ…もう、このお部屋…公衆便所みたぁい…」

新人「(脱力気味で) はぁっ…はぁっ…んはぁっ…メイドの…クサくておっきなおナラで…肛門…良く見えますかぁ…？んふう～～っ…んはぁっ…はぁっ」

先輩「お尻の穴ピクピクが可愛らしいですわよねえ…でもまだぁ…あなたのお腹の中の…ウ・ン・コ、ぜ～んぶ、ご主人様の前でブリブリ脱糞してくださいねえ…うふふっ」

新人「(ここから少し苦しそう・嫌な感じはほとんどなし) あ～～んっ…そ、それは…ほんとに駄目ですぅ…んはぁっ…だってこれ…げ、下痢ウンチなのにい…下痢便脱糞なんてえ…はぁっ…恥ずかしすぎますぅ…はぁんっ…はぁ～～っ…下痢ウンコっ…んん～～っ」

先輩「いいのぉ…恥ずかしがらないでえ…」

新人「んん～～っ…そんなこと言ってもぉ…下痢便だもんっ…はぁ～～んっ…んんん～～っ…んん～～っ」

先輩「大丈夫う…あとで…私もあとでえ…ウンコ、ひり出しますからぁ…」

新人「はぁっ…はぁっ…せ、先輩も…ウンチするんですかぁ…はぁっ…んんん～～っ…う～～んっ…」

先輩「わたしい…ご主人様の前で…ご主人様に…脱糞姿を見せたくてえ…本当はウズウズしてますのぉ♪」

新人「はぁんんっ…んんん～～っ…わかりましたぁ…(ここから力んで) んんっ…メイドのぉ…げ、下痢ウ

ンチ…見てくださいねぇ…はぁんっ…んん～っ…」
先輩「うふふっ…わかってくれたみたあい…ほらぁ…
頑張ってるねぇ…」

新人「はぁっ…んんん～っ…だ、脱糞直前のお…メ
イド肛門っ…はぁっ…丸見えですう…はぁんっ…ん
んんっ…う～んっ」

先輩「ご主人様も…あなたのウンコ穴、ガン見中、で
すよぉ…♪うふふっ」

新人「はぁっ…はぁっ…んんっ…ガン見されながら…
下痢便でちゃう…でも…でる…でるう…ほんとに下
痢っぽいよぉ…んん～っ…ううう～んっ…」

先輩「最後はちゃんと…ご挨拶してからでしょ…」

新人「(勢いよく) 下痢ウンコ…下痢グソを…だ、脱
糞するので…はぁっ…んはぁっ…チンポ勃起させて
え…はぁんっ…んん～っ…げ、下痢便…脱糞メイド
が…下痢ウンコ…ケツから…だ、出しまぁす…んんん
～っ…んはぁ～んっ…ああぁんっ…下痢便…下痢
ウンコお～んっ…んはぁぁぁっ…はぁぁぁ～ん
っ」

先輩「(すこし興奮気味に) はぁ～んっ…すごい下
痢ウンコお…ブリブリってえ…メイドのケツ穴から
ぁ…はぁんっ…」

新人「(脱力気味) はぁっ…はぁ～んっ…下痢便い
っぱい…それに二オイもぉ…下痢便がぁ…ぶりゅ
ぶりゅってえ…出てますう…下痢便…下痢ウンチい

…んんん～っ…はぁっ…くっさいのお、ウンコくっさぁ～い…♪はぁっ…んんん～っ…はぁっ…」
先輩「(すこし興奮気味・嫌そうに) んん～んっ…ちょっとお…クサすぎい…ウンコクサいですのお…下痢グソ…クサすぎですう～んっ…んはぁっ…」

新人「(勢いよく) あああんっ…はぁ～んっ…まだでるう…すごい…出ちゃうう…ウンコ・ウンコ・メイドウンコおおっ…んんんんん～っ…」

先輩「(すこし興奮気味に) はぁ～んっ…お腹に…こんなにい…くっさぁ～いウンコがぁ…残ってたなんて…もう部屋中…下痢便のニオイでえ…ぷんぷんなお…はぁ～んっ」

新人「(脱力) んはぁっ…はぁっ…はぁ～っ…け、ケツから…う、ウンコ、全部出ちゃいましたぁ…ウンコひり出しメイドの私…ご、合格ですかぁ…？」

先輩「うふふっ…お疲れ様…合格ですわ…それにしてもお…あんなにお下品に下痢便・下痢ウンコなんてえ…叫んじゃうなんてねえ…じゃあ…最後に…あいさつしてねえ」

新人「(かわいく) こ、これが…ウンコを漏らした…私のパンティです。ウンコのニオイが取れないかもしれないけど…持ち帰って…たっぷりオナニーしてくださいね♪スカトロマニアのご主人様・大好き♪」